市町村名	うるま市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-④	商品開発プロモーション事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(9)－イ 県産品の販路拡大と地域ブランドの形成
担当部課名	経済部　商工観光課	事業実施（予定）年度	平成２５～２７年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(4)
事業内容	市内中小企業の商品開発の強化及び販路拡大を図るため、県内外をはじめ中国・台湾などにおける市産品の物産展やアンテナショップ事業を実施する。 また、本市の豊かな農畜水産物を活かし、農商工連携による戦略的な商品開発と販路拡大に取り組む。さらに開発商品及び食のグルメなどのプロモーション活動を展開していく。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	27,317	36,182			
	(b) 予算現額	26,320	34,784			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 997	▲ 1,398			
	(d) 繰越額	－	－			
	A. 計 (b+d)	26,320	34,784			
B. 執行済額		24,509	34,644			
うち交付金充当額		19,607	27,715			
次年度繰越額		－	－			
執行率（%）(B/A)		93.1%	99.6%			

予算の状況の説明

予算減については、契約締結時に事業の内容を精査した結果の減額及び特別旅費の執行残となっている。また、執行率が99.6%にとどまっている理由については、事業完了後の委託料を精算した結果、人件費及び事業経費の執行残が発生したことが理由となっている。

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度（1-③）	28年度（1-③）
・県外における物産展への出展　6回	目　標	（物産展への出展）	（6回）	（　）	（　）
	実　績	6回	5回		
・特産品開発件数　2～3商品	目　標	（5商品）	（2～3商品）	（　）	（　）
	実　績	6商品	6商品		
・プロモーション回数　2回	目　標	（　）	（2回）	（　）	（　）
	実　績		4回		
・商談会出展件数　2件	目　標	（　）	（2件）	（　）	（　）
	実　績		2件		

達成状況説明

①特段品販路拡大支援事業
・うるま市内の事業者が新たな販路を求め県内外、国外の物産展や商談会等に出展する際に必要な経費の一部を補助し、またうるま市の特産品PR等も併せて実施した当初県外物産展を6回想定していたが、事業を実施するなかで零細企業が多いうるま市において、身近な購買層をターゲットとした市外物産展(県内)へ出展したほうが効果的であると判断し、市外物産展を2回実施し、県外（国外含）は5回の出展となった。
②特産品開発及びプロモーション支援事業
・特産品を活用した商品開発及び既存商品等の改良を考えている事業者に対し、将来自らが中心となって商品開発や販路開拓を推進できるようワークショップを7回開催した。また、特産品を使用したメニューの市内カフェでのテスト販売やバイヤーマッチングイベントを実施し、事業者の販路開拓の支援も併せて実施し、商談成立にいたった。プロモーション活動は当初2回と限定で想定していたが、期間内に継続的なプロモーション活動を行っており、主に4回（離島フェア1回、産業まつり（沖縄県・うるま市）2回、うるま市全世帯へパンフレット配布1回）実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度（1-③）	目標値（28年度）
・物産展等売上額　1,500万円	目　標	（　）	（600万円）	（1,500万円）		（　）
	実　績		9,307,763円	15,667,322円		
・出展社延べ数　60社	目　標	（　）	（5社）	（60社）		（　）
	実　績		9社	59社		
・特産品開発件数　2～3商品	目　標	（　）	（5品）	（2～3商品）		（　）
	実　績		6品	7商品		
・商談成立件数　2件	目　標	（　）		（2件）		（　）
	実　績			26件		
【参考指標】島ネロの販売数(成分表示等ブラッシュアップ)	目　標	（　）	（559本）	（1,000本）	(2,000本)	（3,000本）
	実　績		559本	2,086本	5,254本	0本
【参考指標】もずくのタレの販売数(ブラッシュアップ製品化及び販売)	目　標	（　）	（0本）	（1,000本）	(2,000本)	（3,300本）
	実　績		0本	2,200本	1,000本	550本
【参考指標】みのむし揚げの販売数	目　標	（　）		（2,940個）	(3,500個)	（4,000個）
	実　績			2,940個	3,919個	4074個
【参考指標】ガレットの販売数	目　標	（　）		（90個）	(170個)	（250個）
	実　績			90個	280個	122個
【参考指標】黄金クリームパンの販売数	目　標	（　）		（980個）	(1,090個)	（1,200個）
	実　績			980個	1100個	1200個

【参考指標】 金つばの販売数	目　標	（　　）		（　399個　）	（500個）	（　700個　）
	実　績			399個	3,415個	8,658個
【参考指標】 にんじん麺の販売数	目　標	（　　）		（　811kg　）	（1000kg）	（　1,200kg　）
	実　績			811kg	251kg	199kg

進捗状況説明

・特産品開発数の目標及び商談成立件数について目標を達成した。テレビや新聞等に取り上げられるなど、一時的には一定の認知度の向上を図ることができたが、次々と新しい商品が流通していく市場のなかで「もずくのタレ」・「ガレット」の販売数が減少傾向ある。今後は既存製品のブラッシュアップ及びプロモーション支援についても検討し、継続的フォローが必要である。「にんじん麺」については、生麺という事もあり賞味期限が短いことが課題となり流通の拡大が難しく売上数が減少傾向にあるが、当商品の課題を克服させた新商品が発売され空港での取引も行われている。「金つば」については、販路開拓支援を通して空港と取引成立されるなど販売数増加に繋がった。「島ネロ」については、店舗が閉店により製造販売が行われていない。現在、市内事業者が引き継ぐことができないか調整中であるが、設備環境の面で調整に時間を要しており、まだ再販売までは至っていない。

取組の検証

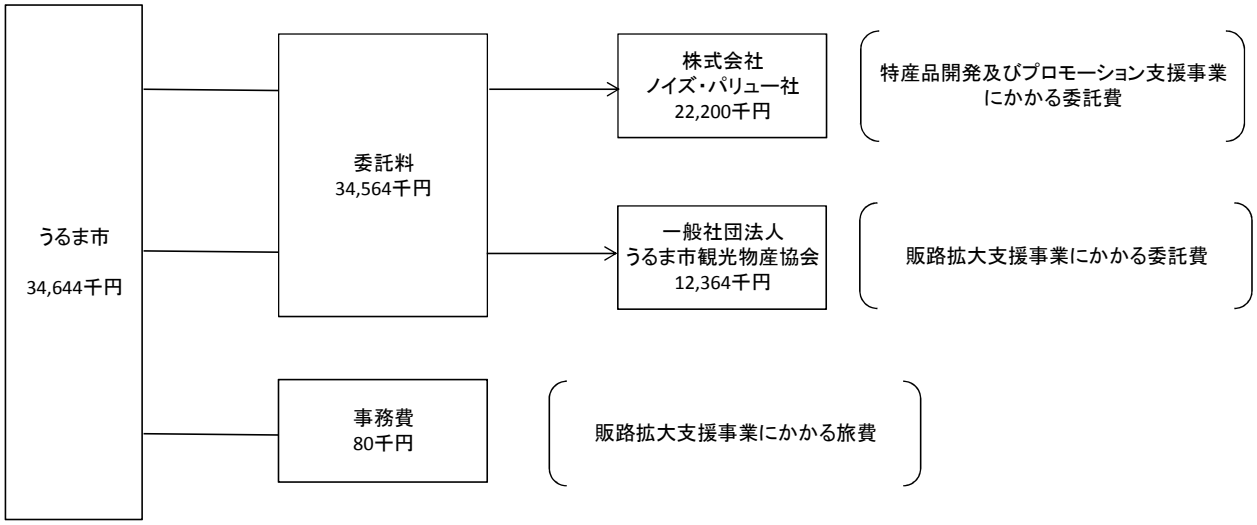
推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	**改善余地の検証**（効率の更なる向上の視点）
売上実績が増加している商品「みのむし揚げ・黄金クリームパン・金つば」については、原材料の確保など安定供給体制を構築する必要がある。 売上実績が減少している商品のうち「島ネロ」については、生産者が欠けた事により店舗が閉店し製造販売が中止しており、引き継ぐ事業者の探索及び製造販売の体制構築する必要がある。 「もずくのタレ」については、催事への出展が少なかったことや、味の改良のため一時的に販売していない期間があり販売数の減少につながっている。「ガレット」については、新商品開発のため催事への出展を控えたため売上も少なくなった。 「にんじん麺」については、学校給食に活用され販売数が伸びていたが、品質管理上の課題で小袋で納品する事を求められたが対応が出来きず学校給食への販路がなくなったことや、賞味期限が短いことにより広域での流通が困難で販路開拓が難しい状況にある。	「みのむし揚げ」や「黄金クリームパン」、「金つば」については順調に売り上げ拡大していることから、原材料の確保や設備についてサポートが必要となる。 「もずくのタレ」及び「ガレット」については、新商品開発及び既存商品のブラッシュアップ実施と平行して安定供給及びプロモーション活動体制を構築する必要がある。 「にんじん麺」については、販路開拓のため、賞味期限など品質面での改良を行う必要がある。 新たな商品開発、既存商品のブラッシュアップの推進及び継続的なプロモーション支援。また、継続的なプロモーション活動を行うことで、安定した需要を生み出す必要がある。

今後の取り組み方針

・「みのむし揚げ」や「黄金クリームパン」、「金つば」などは、原材料不足がないよう、農家とのタイアップを推進し、必要な設備投資については、補助メニューの活用が出来ないか助言していく。
・味及び品質、並びにデザインなどのブラシュアップを推進していく。また、ブラッシュアップ後には、ニュースリリースなどのプロモーション活動を行うとともに、継続的なプロモーション活動のため市内外ひいては県外の催事、イベントを活用できないか助言し、安定した需要を生み出す。また、安定供給体制を構築するため、人材育成や設備投資等の補助メニューの活用が出来ないか助言していく。
・商談調整を行い、商談成立に向け取り組むとともに、販路開拓の支援も併せて実施する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
34,644	34,644	27,715	6,929	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価

評価	点　検　項　目	評価に関する説明
○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、経験等を勘案したうえで選定しており、妥当であると考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については、本事業の完了後に、事業目的達成の観点から支出内容を精査したうえで精算を実施しており、適正であった。
○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	